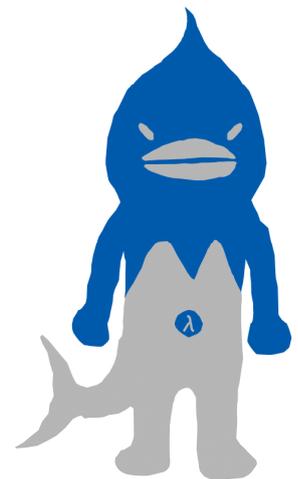


Ⅱ 活動事例

津軽海峡交流圏形成に向けた、 活動の数々。

津軽海峡交流圏の形成に向けた
λ（ラムダ）プロジェクトに関する
活動事例を紹介します。



文中の〔提案番号〕欄には、関連があると考えられる過去の提案番号を記載しています。

- 活動事例（津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議）
.....44 ページ～49 ページ
- 活動事例（企業・団体等）49 ページ
- 活動事例（行政）50 ページ～54 ページ

○**New!!** 津軽海峡でつながる 文化・芸能交流（北海道江差町と青森県佐井村）
 /平成 26 年 3 月～（室谷元男委員、高木まゆみ委員）

北海道道南地域との交流圏形成や連携・協力体制の強化を図り、これらの地域をつなぐ観光ルートを構築するため、観光事業者・関係者を招きモニターツアーを実施。佐井村と北海道江差町との交流が活発となり、平成 27 年 3 月に行われた福浦歌舞伎春の特別上演会に、江差町の有志 20 名が応援に駆け付け、江差町の郷土芸能を同舞台で披露した。今年の 10 月 14 日には、佐井村の福浦歌舞伎公演を江差町の追分会館で披露し交流する。

津軽海峡でつながる 文化・芸能交流（北海道江差町と青森県佐井村）

江差町

大間崎
佐井村

かつて、両地域は
北前船の寄港地であり
つながりが深い

福浦歌舞伎の館にて
江差町と佐井村の夢の共演を鑑賞
図説

江差町郷土芸能 餅つき囃子

江差追分

佐井村 福浦歌舞伎

佐井村 矢越歌舞伎

佐井村の若手役場職員が中心となり、津軽海峡交流圏を盛り上げようと、ちんどん屋「夢作宣伝社」と一緒に、江差いにしえ街道を練り歩き、江差町と佐井村の交流をアピールしながら、漁村歌舞伎を宣伝した。

○**New!!** 金木太宰ミュージアムへの提案/平成 29 年 6 月
 （山内史子委員、伊藤一弘委員、木谷敏雄委員）

2017 年太宰ウィークのイベントのひとつとして、6 月 23 日にラムダ委員の伊藤一弘氏、木谷敏雄氏と太宰治と津軽の風土について鼎談。インターネット TV で中継。併せて、太宰ミュージアムのインバウンド対応について、関係者の皆さまにお話させていただきました。

- New!!** 日本銀行広報誌「にちぎん」における弘前市の活動紹介（2017年9月発行）
（山内史子委員）

活性化がみられる地域を紹介する「にちぎん」の連載「地域の底力」において、弘前市のまちづくりの背景を取材。市長の葛西憲之氏、ラムダ委員の坂本崇氏、2016年春のラムダ会議にご登場いただいた弘前市観光振興部長の櫻田宏氏らにお話を伺いました。
http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/

- New!!** 人の流れを作る動き～地元の流動と地域間の流動（高橋俊介委員）

■台湾サイクリストの招聘事業

○活動開始時期 平成26年9月～

○概要

アジアで最も先進地である台湾のサイクリスト（サイクリング団体）を招聘し、津軽海峡を周遊するサイクリングツアー造成の可能性を探った。

企画・アレンジ・協賛 津軽海峡フェリー。

○実施時期

第一回：平成26年9月

第二回：平成27年11月

第三回：平成28年8月（※）

※：函館直行便ではなく JAL 便で青森に入る行程を提案（往路：台北松山～羽田、羽田～青森、復路：函館～羽田、羽田～台北松山）。青森滞在時間が長くなり非常に有意義な行程を作ることが出来た。またお客様の評判も非常に良かった。青森航路の利用促進にもつながるため、今後は JAL の協力も得ながら“便利な入込みルート”として紹介、採用を進めたい（料金的な協力もお願いしていきたい）。

■台湾サイクリスト向け定番サイクリングツアーの造成

○活動開始時期 平成28年10月～

○概要

台湾の旅行代理店と協定締結、津軽海峡エリアの PR・商品造成と送客につき協業を進めている。このエリアで初めてとなる「津軽海峡」周遊型のサイクリングツアー商品を企画・造成中。第一弾は8月7日から、立佞武多祭参加を目玉とした「夏の定番商品」として催行する。

今後、四季それぞれに「定番商品」を造成する予定。

企画・アレンジ・協賛 津軽海峡フェリー。

■国内の定番サイクリングツアー商品の造成

○活動開始時期 平成 28 年 11 月～

○概要

「伊丹-青森(or 三沢)」「函館-伊丹」、「羽田-青森(or 三沢)」「函館-羽田」の航路活性化も念頭に、双方向のサイクリングツアー商品の造成を進めている。こちら側は「津軽海峡周遊型」で提案中。サイクリスト・フレンドリーの施設、事業者による組み立てを前提としている。開始時期については相手がある話なので現時点では未確定。

■津軽海峡地域の地元の方の流動を促す仕掛け

○活動開始時期 平成 29 年 4 月～

○概要

①津軽海峡フェリー＋観光タクシープランの造成（青森方面行き）

また旅くらの企画・協力により贅沢なタクシープランとなった。

道南・北海道のひとは腰が重くなかなか青森方面に移動いただけない所がある。ちょっとお試しでも、仲間同士のご旅行にも適した自由度の高い内容となった。通年商品。JTB 北海道函館支店での販売。

②大沼プリンスホテル ステイ&ゴルフパックプランの造成（函館方面行き）

自宅から自家用車で、大沼プリンスホテルに泊まり、北海道らしい雄大なゴルフコースを 2R、のパック商品。はこなび（Web）での販売。

○**New!!** 津軽半島自然体験コーディネーター育成塾/平成 28 年 6 月～（木谷敏雄委員）

青森県自然保護課では、平成 27 年度に実施した「下北自然体験コーディネーター育成塾」に引き続き、北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業に伴う、新たな自然体験プログラムを展開していくために、津軽国定公園の今別町褰月地区をメインフィールドとして、地域の自然資源の魅力や価値を洗い出し、保全方法や活用方策を学び、これらを伝え、新たな生業づくりにチャレンジすることのできる担い手を育成する「津軽半島自然体験コーディネーター育成塾」を開講。今別町褰月地区の地域自然資源を活用した自然体験プログラム開発をテーマに、津軽国定公園を活用した持続可能な地域づくりを担う中核人材を育成。その中核人材は、その地域の魅力ある自然資源を楽しみながら学ぶことのできる自然体験プログラムの開発・実践を通じて、地域住民の方々にこれら自然資源の素晴らしさを伝えることのできる企画調整役となる人材とした。

6 月から 10 月まで、5 回のワークショップを行い、10 月には出来上がった褰月地区の歴史自然散策、海岸での体験プログラム、郷土料理体験など実践するモニター体験イベントも開催。廃校を活用した海峡の家「ほろづき」を拠点にした自然体験プログラムを開発した。現在は、奥津軽トレイルと連携した新たなコースなども検討中である。

<作成した自然体験プログラムパンフレット>



■企業・団体等

- New!!** 青森県と道南の将棋愛好会による第1回北海道新幹線開業記念将棋大会の開催
／平成28年7月 [(1)圏域内の交流・連携 36]

北海道新幹線の奥津軽いまべつ駅が開業した今別町で、初めて、日本将棋連盟青森支部と函館中央支部の交流として記念大会を開催。今後は相互開催を予定。(日本将棋連盟青森支部、函館中央支部)

- New!!** 青函連絡船巡るドラマ「進め!青函連絡船」制作／平成28年9月

青函連絡船と名物だった海峡ラーメンを巡る青函の絆の深さを感じさせる内容で、ロケは全て県内で実施。(NHK青森放送局)

- New!!** ヒバ林をテーマに本県と道南地域の交流拡大を図る「津軽海峡ヒバサミット」開催
／平成28年10月

津軽、下北、北海道渡島半島の共有資源であるヒバをテーマにした民間交流として開催。ヒバ林を活用した観光や地域活性化案について話し合った。(奥津軽トレイル倶楽部)

- New!!** 青函ブランドの商品開発や販路拡大を目指す「第7回パートナーシップ構築懇談会」開催
／平成29年2月 [(1)圏域内の交流・連携 21]

青森会場で初めての開催であり、函館側10社、青森側25社の参加により、自社の商品やビジネスを説明し、個別相談会を実施。これまで15件の成果商品が生まれている(函館商工会議所、青森商工会議所)

- New!!** 青森港フェリーターミナルと主要観光地や大学などを結ぶタクシー料金の運賃割引サービス開始
／平成29年7月 [(1)圏域内の交流・連携 32]

青函航路が北海道新幹線より割安な点に着目し、道南から青森へ観光や帰省などで訪れる方の利用を見込む。(青函フェリー、青森タクシー)

■行政

<国>

- New!!** 青函地域活性化の課題を探る「第3回 青函地域経済活性化フォーラム」を開催」の開催／平成29年6月

青森県と北海道の両財務局の青函地域の自治体、経済団体、金融機関の関係者等を対象としたフォーラムを開催し、青函地域活性化の課題について情報を共有した。(東北財務局、北海道財務局)

<県>

- New!!** λ(ラムダ)プロジェクト道南連携強化事業(企画政策部)／平成29年度

[1]圏域内の交流・連携17]

本県と道南地域との連携を深め、津軽海峡を挟んだ企業や団体間の連携・交流の動きが活発化する場づくりを行うとともに、津軽海峡交流圏の拡大や津軽海峡経済圏形成に対する認知度定着に向けた情報発信を行う。

- New!!** 青い森鉄道の新たなユーザー獲得事業(企画政策部)／平成29年度

[1]圏域内の交流・連携2]

県内外の旅行会社に旅行商品として取り扱ってもらうことを目的に、青い森鉄道及び沿線地域の魅力を活用したコンテンツ開発に向けた検証を実施するほか、沿線の魅力を広く情報発信する情報番組を制作する。

- New!!** 青森ならではのグリーン・ツーリズム確立事業(農林水産部)／平成29年度

[4]その他21]

国内外のグリーン・ツーリズム宿泊客の拡大に向け、受入団体や地元旅行業者と連携し、「農山漁村の暮らし」を取り入れた新たなグリーン・ツーリズムを展開する。

- New!!** 選ばれるあおもりサイクリング推進事業(観光国際戦略局)／平成29年度

[4]その他21]

これまでの取組で蓄積した成果や、国内最大手サイクル雑誌によるあおもりサイクリングムック本発行(国内2例目)といった市場の評価を活用して着実に誘客するため、本県・津軽海峡圏サイクリングの情報発信やプログラム開発を行う。

- New!!** 青函周遊観光定着化推進事業(観光国際戦略局)／平成29年度

[4]その他21]

青森県と北海道道南地域を巡る周遊観光ルートの魅力を広くPRし、認知度を高め、国内観光での定番ルートとして定着化を図る。併せて、JR東日本と連携した観光キャンペーンを実施し、青函DCで培った観光コンテンツをあらためて発信し、今後の定着化を図る。

○**New!!** タイ誘客対策強化事業（観光国際戦略局）／平成 29 年度

〔(4)その他 21〕

東南アジアの中では本県への宿泊者数が急速に伸びているタイにターゲットを絞り、青森・ソウル線を活用した団体旅行の強化（青森＋北海道新規旅行商品の造成支援等）を図るとともに、タイにおける F I T 化の進展を受け個人旅行向けの情報発信を強化する。

○**New!!** 東青地域観光資源 P R 事業（東青地域県民局）／平成 29 年度

個人旅行者をターゲットに、地域住民しか知らない自慢の絶景ポイントの情報発信を行うとともに、地域と連携して多彩な地域資源を活用したモデルコースの作成等を行う。

○**New!!** 東青地域冬季観光育成事業（東青地域県民局）／平成 29 年度

〔(4)その他 15〕

首都圏在住者など雪との触れ合いが少ないエリアの住民をターゲットとして、管内市町村観光担当者等と協議しながら、冬季に実施する体験メニューの造成、情報発信を行う。

○**New!!** 三八地域一体型広域観光情報発信事業（三八地域県民局）／平成 29 年度

三八地域一体となった広域観光の振興に向けた意識形成・機運醸成を図るとともに、三八地域を一体とした国内外への情報発信を推進する。

○**New!!** 青函周遊観光の定着に向けた「旅行エージェントセールス」の実施

（観光国際戦略局）／平成 29 年 6 月

首都圏などの旅行エージェントに対して、青函周遊旅行商品の造成を促すエージェントセールスを実施した。

○**New!!** 青森県・函館デスティネーションキャンペーンの効果を持続させるため、「青森県・函館観光キャンペーン」を実施

（青森県・函館観光キャンペーン推進委員会）／平成 29 年 7 月～9 月

青森県及び北海道道南地域への更なる誘客促進のため、観光キャンペーンを実施し、青函周遊観光の定着を目指す。

○あおもりキャンパス L I F E 魅力再発見推進事業（総務部）／平成 28・29 年度

〔(3)体制づくり 6〕

平成28年度に引き続き、高卒者の県内定着・流出対策を講じるため、道南地域を含め県内外の高校生に対し、合同進学相談会の開催や情報誌の配布を通じて、県内大学等への進学を選択肢として強力にアピールすることにより、将来、地域で活躍する人財を地域が一体となって育てる取組を推進する。

○世界に向けた「青森ブランド」発信事業（企画政策部）／平成 28・29 年度

[(3) 体制づくり 9]

本県の「生業」と「生活」が一体となって生み出す価値の総体としての「青森ブランド」を確立するため、青森ブランド推進委員会での議論や県民等の青森ブランド創出に向けた取組を促進し、青森ブランドの再認識・再評価、創出に向けた気運の醸成を図るとともに、県内外への戦略的な情報発信を行う。

○航路でつながる津軽海峡交流圏周遊促進事業（企画政策部）／平成 28・29 年度

[(1) 圏域内の交流・連携 29]

新幹線や航空路線を利用して本県及び道南地域に入り、津軽海峡交流圏域内をつなぐ航路を活用して圏域内を周遊する旅行商品の造成を促進するため、主要旅行エージェントに対して商品造成を委託する。

○奥津軽いまべつ駅二次交通運行・利用促進事業（企画政策部）／平成 28・29 年度

[(4) その他 25]

北海道新幹線奥津軽いまべつ駅の開業効果拡大を図るため、奥津軽いまべつ駅の二次交通の実証運行を支援するとともに、駅活用推進体制の強化等を行う。

○つながる県民もっと拡大事業（企画政策部）／平成 28・29 年度

交流人口の増加と地域資源を活用した生業づくりを促すため、首都圏在住の本県出身者や青森ファンとの交流ウェブサイトを充実させるとともに、交流会の開催や、県人が持つスキルを生かした生業づくりを実践する。平成29年度末の事業終了に向けて、継続してサイトや交流会を自主運営できる体制の構築を目指す。

○JOMON ムーブメント拡大推進事業（企画政策部）／平成 28・29 年度

[(1) 圏域内の交流・連携 22]

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録の実現に向けて、縄文遺跡群の認知度向上、世界遺産登録を後押しする気運醸成のためのプロモーションを県内外で展開するとともに、交流人口の拡大など世界遺産登録の効果獲得に向けた受入態勢の充実・強化を推進する。

○白神山地「選ばれる世界遺産」プロジェクト事業（環境生活部）／平成 28・29 年度

[(1) 圏域内の交流・連携 9]

白神山地とその周辺地域の自然・地域住民・地域外住民・産業のポテンシャルを掛け合わせるにより、体験プログラムの充実や情報発信・推進体制の強化、白神資源の活用による暮らしと産業の創造、これからの白神を担う次世代育成に取り組み、白神山地の顕著な普遍的価値の継承と、地域の自律的発展・活性化を図る。

○青函エリア食のプロモーション推進事業（農林水産部）／平成28・29年度

〔4〕その他21〕

北海道新幹線開業効果を十分に発揮できるよう、青函エリアの枠組みを生かした食に係るプロモーションを展開する。また、「青森の正直」商談会を開催し、青函エリア内での食に係る取組を支援する。

○東アジア・東南アジア向け青函情報発信事業（観光国際戦略局）／平成28・29年度

〔3〕体制づくり6〕

東アジア・東南アジアからの多くの外国客が訪れている函館地域から、青森県への周遊の促進を図るため、市町村と連携し、青森県・函館を含む観光多言語ガイドブックを作成する。

○観光おもてなし・サービス向上事業（観光国際戦略局）／平成28・29年度

観光サービス事業者を対象にサービス品質のマネジメントを学ぶ講座を開催するとともに、県内モデル地域の宿泊施設において、宿泊サービス向上に向けた課題整理、改善検討を行い、観光産業のサービス水準の向上を図る。

○農山漁村でとことん「学び・交流・体験」事業（農山漁村体験留学支援事業

「津軽海峡交流圏編」）（教育庁）／平成28・29年度

〔3〕体制づくり6〕

北海道新幹線を活用し、森町・函館市・北斗市等の文化にふれるとともに、農山漁村に宿泊体験留学を行うことで、津軽海峡交流圏の自然・文化・歴史への理解を深める。（小学校4～6年生20名程度、2泊3日）

○東青・道南地域連携型観光推進事業（東青地域県民局）／平成28・29年度

〔1〕圏域内の交流・連携〕

北海道新幹線開業効果を継続的に獲得していくため、北海道新幹線沿線を1つのエキシビジョン会場に見立て、当該地域の各種団体が連携して博覧会形式で開催するイベントを支援するほか、イベントでのパンフレット配布など各種PRを行う。

○東青地域果樹の楽園づくり推進事業（東青地域県民局）／平成28・29年度

陸海空の交通の要衝である東青地域で生産されている多様な果樹を地域資源として活用し、東青地域の果樹のブランド化を図るため、果樹観光取組者等のネットワークを強化するとともに、果樹観光マップの作成、新しい観光メニューを取り入れたツアー等の効果検証を実施し、受入体制のレベルアップを図る。

○中南地域着地型観光魅力発信事業（中南地域県民局）／平成28・29年度

中南地域の豊かな自然の魅力を活かしたツーリズムの提案を実施する他、「街歩き」を中南地域全体の観光コンテンツとして確立するための取組を実施する。

○三八地域がっちり稼ぐ広域観光事業（三八地域県民局）／平成 28・29 年度

三八地域周辺（下北・上北等）と三八地域のコンテンツを巡る、テーマ性のあるモデルルートを検証、及び三八地域を訪れる観光客の滞在時間増加策についての検討会の開催。

○津軽半島北部エリア誘客促進事業（西北地域県民局）／平成 28・29 年度

奥津軽いまべつ駅に隣接する津軽半島北部エリア（五所川原市、中泊町）を中心として、誘客に向けた露出強化や旅行商品造成を促す取組を実施する。

○上北アクティビティ・ブラッシュアップ事業（上北地域県民局）／平成 28・29 年度

〔(1)圏域内の交流・連携 28〕

十和田湖、小川原湖で楽しめるカヌー・カヤックや、近年ブームのサイクリングやランニングなどのアクティビティをメインに取り入れた新たな旅商品を検討し、その成果や今後の課題・目指す方向などを地域の取組関係者と共有する。

○台湾を主軸とした下北インバウンド促進事業（下北地域県民局）／平成 28・29 年度

函館経由で来日する台湾人観光客等を津軽海峡フェリー「大函丸」で下北へ誘客するなど、観光による地域振興を図るため、台湾国内での下北地域の知名度向上に向けた情報発信を行うとともに、外国人観光客に対応可能なガイド養成など誘客受入体制の環境整備を行う。

<県・道南>

○**New!!** 青森県と北海道渡島総合振興局合同で埼玉県の中学校に対する修学旅行誘致活動を実施／平成 28 年 9 月 〔(1)体制づくり 6〕

埼玉県の大宮駅から北海道新幹線に乗って青森、函館、大沼などに来てもらう 1泊2日の青函コースを、埼玉県の中学校長を招いて実施。（北海道渡島振興局、青森県）